

# 全国消防操法大会 阿井分団が準優勝の快挙！

## 西村聖団員が優秀選手賞を受賞

十一月八日に東京都の東京臨海広域防災公園で開催された第二十四回全国消防操法大会において、島根県代表として小型ポンプの部に出場した阿井分団が、準優勝第三位の快挙を成し遂げました。また、一番員の西村聖さんが優秀選手賞を受賞しました。

「消防団の甲子園」とも呼ばれているこの大会は二年ごとに開催。各都道府県大会の予選を勝ち抜いた四十八消防団が、ポンプ車の部、小型ポンプの部に分かれて、速さ、正確性、規律の正しさを競い合います。

全国大会には、平成十四年に旧仁多町消防団布勢分団が出場して以来十二年ぶり、旧仁多・横田町消防団を通過すると五回目の出場となりました。

## 一糸乱れぬ素晴らしい 操法を展開

昨年の八月に開催された島根県大会で優勝し、全国大会の切符を得た。

手にした阿井分団は、二十四出場隊のうち七番目に登場。約一万一千人の大観衆が見守る中、長期にわたる厳しい訓練で鍛え上げられた素晴らしい操法を披露しました。奥出雲町からも約百人の応援団が駆けつけ、目の前で繰り広げられる出場隊の操法にこれまでの苦労が思い出され、感極まって涙が溢れる人の姿もありました。

## 大会報告会と 出場隊解団式

十一月十日、町民体育館で大会報告会と解団式が行われ、来賓や消防団関係者、選手の家族など約百五十人が集まり、凱旋した選手への労をねぎらいました。

式では、結果報告のあと、島根県防災部長御代理の山下博徳東部県民センター所長、松浦嘉昭（公財）島根県消防協会会長などから祝辞が述べられました。

また、安部正教団長から「選手は責任と自覚を持ち、長く厳しい訓練を耐え抜き、大会では集中し

て操法に挑んだ。今後、準優勝という結果を団だけでなく郷土の発展の寄与につなげたい」とあいさつがあり、荒木俊史主将から「地域の皆さんの協力のおかげで選手一同力を出し切り、準優勝という結果を勝ち取ることができた。これから町や団の行事などで恩返しをしたい」と感謝の言葉が述べられました。

出場隊の皆さんは、家族や職場、地域の方々の理解と支援のもと、半年以上の長期間にわたり、全国大会に向けて厳しい訓練を積み重ね、素晴らしい結果を残されました。選手をはじめ消防団の皆さん、大変お疲れ様でした。

## 〈阿井分団出場隊の紹介〉

分団長	中西 修一
副分団長	長谷川 正
主 将	荒木 俊史
指揮者	藤原 尚也
1 番 員	西村 聖
2 番 員	小村 彰宏
3 番 員	荒木 陽史
吸管補助員	安原 剛広



## 松浦士登副町長が就任



## 就任のご挨拶

先般十一月十四日の町議会において選任同意を賜り、十一月十七日付けで、奥出雲町副町長に就任いたしました。

私は、雲南市掛合町出身で、昭和六十年より約三十年間県職員として勤務し、最近の十年間は主に産業振興（製造業振興）を担当してきました。

重責に身の引き締まる思いではありませんが、県職員としての経験とネットワークを活かし、勝田町長をしっかりと補佐する所存ですので、どうぞよろしくお願いたします。

さて、国内経済は、グローバル化や円安の進行などにより、製造業を中心に、海外と取引を行う大企業は好調ですが、中小企業や非製造業は原材料費の高騰などによ

り、特に地方経済においては厳しい状況にあります。

また、国全体が人口減少社会に突入し、特に地方においては人口減少・少子高齢化に拍車がかかってきています。

このような中、「地方創生」が叫ばれていますが、奥出雲町には豊かな自然や歴史、文化、ブランド力のある農畜産物などの優れた地域資源が沢山あるとともに、技術力の高い企業や、奥出雲の活性化を真剣に考えて自ら行動しようとする若者もいます。

更には、地域の自立に向け、これらの地域資源を活かし、「地域経営」といった視点を踏まえた先駆的な取り組みの実績も多数あります。

このような高いポテンシャルと実績を持つ奥出雲町の発展なくして、島根県の発展、ひいては国内中山間地域の活性化はない、との気概を持ち、微力ではありますが、全力を尽くす覚悟でございます。

町議会議員の皆様はもとより、町民の皆様のご意見を拝聴しながら取り組んでまいりますので、私を見かけたら気軽に声をかけていただけると幸いです。

皆様からの格別のご指導とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。就任のご挨拶といたします。

## たたら製鉄が生み出した風景の魅力を再認識

### 文化的景観フォーラム

「たたら製鉄の歴史を刻む奥出雲の大地」と題した文化的景観フォーラムが行われました。

第一部では、「鉄穴流し跡地の棚田と山地災害特性」、「奥出雲のたたら製鉄と森林資源」、「たたら地帯における村落の開発と充実」の三つの題目の研究報告が行われました。

たたら製鉄により栄えた集落の様子やたたら吹きに必要な木炭の仕入れの様子、鉄穴流し跡地に形成された棚田が、土砂崩れなどの減少に寄与していることなどが報告されました。

第二部では、九名の有識者によるフォーラム（公開討論）が行われました。

それぞれの専門分野の視点から、文化的景観を今後どのように

守り残していくべきか、まちづくりにどのように活かしたらよいかなどを討論。

「たたら製鉄とともに生きた先人たちが残した素晴らしい文化と風景はここ奥出雲にしかない。このことを町民が理解し、誇りをもって子どもたちや町外の人に伝えていかなければならない」と、熱い意見が交わされました。

会場に集った約百人の来場者は、うなずきながら熱心に耳を傾け、たたら製鉄の歴史と知恵によって生み出された風景の魅力について理解を深めました。



▲フォーラムの様子